

ウィークリー・アウトLOOK

一休み!?

【今週のポイント】

- ・米長期金利 3.0%割れ、米ドル/円 130 円割れは重要水準達成後の調整か
- ・米長期金利、米ドル/円も上を目指すと予想。ただし、米景気に要注意！
- ・豪経済指標を受けて RBA の利上げ観測は強まるか
- ・21 日の豪総選挙の結果次第では、豪ドルが売られる可能性も
- ・カナダ CPI は BOC の利上げ観測を補強するか

先週(5/9-)、米長期金利(10年物国債利回り)は3.0%を下回り、米ドル/円は130円を割り込みました。いずれも、重要な水準だったため、それらを突破したことでいったんの達成感からの調整であると判断します。先週や今週はもう一度上へ行くためのエネルギーをため込む局面かもしれません。

今週の主要経済指標・イベント

			当社予想	市場予想	前回値
5月16日	21:30	【米】NY連銀製造業景気指数(5月)	17.0	15.0	24.6
5月17日	10:30	【豪】RBA議事録(5月3日開催分)			
	21:30	【米】小売売上高 前月比(4月)	1.0%	1.0%	0.7%
		【米】小売売上高(除自動車) 前月比(4月)	1.2%	1.4%	1.1%
5月18日		G7財務相・中央銀行総裁会議(20日まで、ボン)			
	8:50	【日】GDP速報値 前期比年率(1-3月期)	-2.0%	-1.8%	4.6%
	10:30	【豪】賃金コスト指数 前年比(1-3月期)	2.5%	2.5%	2.3%
	15:00	【英】CPI 前年比(4月)	9.0%	9.1%	7.0%
	17:00	【南アフリカ】CPI 前年比(4月)	6.0%	5.9%	5.9%
	18:00	【ユーロ圏】CPI改定値 前年比(4月)	7.5%	7.5%	7.4%
	21:30	【カナダ】CPI 前年比(4月)	6.8%	6.7%	6.7%
5月19日		【トルコ】祝日(青年とスポーツの日)			
	10:30	【豪】失業率(4月)	3.9%	3.9%	4.0%
		【豪】雇用者数 前月比(4月)	2.80万人	3.00万人	1.79万人
	21:30	【米】フィラデルフィア連銀製造業景気指数(5月)	15.0	16.5	17.6
	22時過ぎ	【南アフリカ】SARB政策金利	4.75%	4.75%	4.25%
		0.50%の利上げが決定されれば、5人の政策メンバーの投票行動に注目。全会一致で0.50%の利上げが決定される、あるいはより大幅な利上げを主張したメンバーがいれば、南アフリカランドの支援材料になりそう。			
5月20日	8:30	【日】CPI 前年比(4月)	2.3%	2.5%	1.2%
5月21日		豪総選挙			
		世論調査で与党・保守連合の支持率は野党・労働党を下回っている。政権交代が実現すれば一時的にせよ豪ドルが売られる可能性も。			

市場予想はBloomberg、5月16日9:00現在。発表日時は日本時間。

米景気は比較的底堅い状況が続いており、高インフレが持続するなか、FRB は利上げを継続するでしょう。13 日時点の OIS(翌日物金利スワップ)によれば、市場は **22 年末の政策金利(FF レート誘導目標)を 2.77%**と予想しています。0.25%換算で 7~8 回の利上げ。パウエル FRB 議長は 5 月 4 日の FOMC 後の会見で、次の 2 回の FOMC では 0.50%の利上げが議題になると述べました。年内残り 5 回の FOMC のうち、2~3 回で 0.50%の利上げ、それも早い段階で実施される可能性が高そうです。

米 S&P 株価指数は先週一時、今年 1 月高値から 20%近い下落となり、一般に言われる弱気相場(高値から 15%超の下げ)入りをしました。高インフレ・高金利により家計や企業には下押しの圧力が加わっているため、米景気が大幅に減速したり、あるいはリセッション(景気後退)入りしないか注意は必要でしょう。

その意味で、**米長期金利の行方**を見守る必要があります。米長期金利が一段と低下し、2 年-10 年でみたイールドカーブ(利回り局面)が逆転するような事態となれば、利上げ観測の後退によって米ドルに下落圧力が加わる可能性があります。<西田>

米国など主要国の株価動向には注意が必要かもしれません。インフレを抑制するために米 FRB が積極的に利上げを行うとの観測を背景に、米国株には下押し圧力が加わりやすいと考えられます。主要国株価が下落を続ける場合、リスクオフ(リスク回避)の動きが強まって円高圧力や米ドル高圧力が加わりそうです。

豪ドルについては、豪州の賃金コスト指数(18 日)や雇用統計(19 日)、総選挙(21 日)の結果も材料になる可能性があります。

SARB(南アフリカ中銀)は 19 日の政策会合を開きます。市場では、0.50%の利上げが決定されるとの見方が有力です。その通りの結果になれば、5 人の政策メンバーの投票行動に注目。全会一致で 0.50%の利上げが決定される、あるいはより大幅な利上げを主張したメンバーがいれば、南アフリカランド/円の支援材料になりそうです。なお、前回 3 月の会合での 0.25%の利上げは 3 対 2 で決定され、決定に反対した 2 人は 0.50%の利上げを主張しました。

BOM(メキシコ中銀)は 12 日に政策会合を開き、0.50%の利上げを行うことを決定。政策金利を 6.50%から 7.00%へと引き上げました。

会合では、政策メンバー 5 人のうち 4 人が 0.50%の利上げを支持し、エスピノサ副総裁はより大幅な 0.75%の利上げを主張。BOM は声明で「インフレ目標を達成するために一段と強力な措置が検討される可能性がある」と表明。今後、利上げペースを加速する可能性を示しました。BOM の次回政策会合は 6 月 23 日です。BOM のタカ派な姿勢はメキシコペソにとってプラス材料であり、メキシコペソ/円は底固く推移する可能性があります。

トルコリラは先週(5/9-)、対米ドルで21年12月以来、対円で3月下旬以来の安値をつけました。トルコではインフレが加速しているものの、低金利を志向するエルドアン大統領の圧力によってTCMB(トルコ中銀)が利上げするのは困難とみられていることが、トルコリラに対する下押し圧力となっています。トルコリラは対米ドルや対円で引き続き軟調に推移する可能性があります。〈八代〉

今週の注目通貨ペア①: <米ドル/円 予想レンジ: 127.500 円~132.500 円>

米長期金利が再び3.0%を超えるか、米ドル/円が130円を超えるかが、重要なポイントとなりそうです。今週(5/16-)は、米経済指標に要注意。17日小売売上高(4月)、18日住宅着工件数(4月)、19日フィラデルフィア連銀製造業景況指数(5月)など。4月の自動車販売台数が前月から7.2%増加しており、小売売上高を押し上げる可能性が大。自動車を除く小売売上高もそこそこ増えれば、景気堅調との判断を維持できそう。一方、市場金利の上昇が住宅ローン金利の上昇を通じて住宅着工件数に悪影響を与える可能性があります。中国でのロックダウンによりサプライチェーン障害が懸念されるなか、フィラ連銀指数にも注目です。

FRB関係者の発言も気になります。16日ウイリアムズNY連銀総裁、17日ブラード・セントルイス連銀総裁、ハーカー・フィラデルフィア連銀総裁、カシュカリ・ミネアポリス連銀総裁、パウエル議長、マスター・クリーブランド連銀総裁、など。インフレ抑制を最重視する姿勢に変化がないか、要チェックでしょう。

〈西田〉

今週の注目通貨ペア②: <豪ドル/NZドル 予想レンジ: 1.08000~1.12000NZドル>

RBA(豪中銀)は3日の政策会合で0.25%の利上げを行うことを決定。政策金利を0.10%から0.35%へと引き上げました。豪州の1-3月期賃金コスト指数が18日、4月雇用統計が19日に発表されます。それらが市場予想よりも強い結果になれば、RBAの利上げ観測が強まり、豪ドルの支援材料になりそうです。

豪州では、21日に総選挙が行われます。与党・保守連合は苦戦しており、世論調査で保守連合の支持率は労働党を下回っています。労働党が過半数を獲得する(政権が交代)、あるいはハングパーラメント(過半数を持つ政党がない状態)になれば、豪ドルが売られる可能性があります。豪ドル/NZドルのメドとして、下値が1.08248NZドル(4/25安値)、上値は1.11760NZドル(18年8月高値)が挙げられます。

〈八代〉

今週の注目通貨ペア③: <米ドル/カナダドル 予想レンジ: 1.27000~1.31000カナダドル>

BOC(カナダ中銀)はインフレを抑制するため3月に0.25%、4月に0.50%の利上げを実施(現在の政策金利は1.00%)。BOCは2~3%の間と推計する中立金利(景気を冷やしも過熱もしない政策金利の水準)に向けて今後も利上げを続ける姿勢を示しており、市場ではBOCの政策金利は22年末までに2.75%になるとの見方が有力です。

カナダの4月CPI(消費者物価指数)が18日に発表されます。CPIが市場予想の前年比6.7%を上回る

結果になれば、BOC の利上げ観測が一段と強まってカナダドルの支援材料となりそう。米ドル/カナダドルは軟調に推移する可能性があります。

ただ、米 FRB も今後も利上げを続けるとみられます。米ドル/カナダドルについては、原油価格(米 WTI 原油先物)の動向にも目を向ける必要があるものの、BOC と FRB の金融政策の方向性を考えると(いずれも上向き)、米ドル/カナダドルは下落を続ける状況ではないかもしれません。米ドル/カナダドルは、1.27123 カナダドル(5/5 安値)が目先の下値メドです。〈八代〉

<執筆者>

執筆者プロフィール



西田 明弘 (にしだ あきひろ)

チーフエコノミスト

日興リサーチセンター、米ブルッキングス研究所、三菱UFJモルガンスタンレー証券などを経て、2012年マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）入社。

米国を中心とした各国のマクロ経済・金融政策・政治動向の分析に携わる。

「アナリスト、ストラテジスト、エコノミスト、研究員と呼び名は変われども、30年以上一貫してリサーチ業務を行ってきました。長い経験を通じて学んだことは、金融市場では何が起きても不思議ではないということ。その経験を少しでも皆さんと共有したいと思います。」

執筆者プロフィール



八代 和也 (やしろ かずや)

シニアアナリスト

2001年ひまわり証券入社後、為替関連の市況ニュースの配信、レポートの執筆などFX業務に携わる。2011年、マネースクウェア・ジャパン（現マネースクエア）に入社。

豪ドル、NZドル、カナダドル、トルコリラ、南アフリカランド、メキシコペソを中心に分析し、レポート執筆のほか、M2TV出演、セミナー講師を務めている。

【プロフィール】 広島県出身。

【趣味】 野球・サッカー観戦。

【一言】 より分かりやすくタイムリーなレポートを心掛けています。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したのですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および取引所株価指数証拠金取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引や取引所株価指数証拠金取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引における取引手数料は無料です。

・取引所株価指数証拠金取引における委託手数料は注文が成立した日の取引終了後の値洗い処理終了時に証拠金預託額より、新規および決済取引のそれぞれに徴収いたします。手数料額は、通常 1 枚あたり片道 303 円(税込)、NY ダウリセット付証拠金取引および NASDAQ-100 リセット付証拠金取引は 1 枚あたり片道 33 円(税込)です(ただし、建玉整理における委託手数料は無料です)。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差(スプレッド)があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率(為替リスク想定比率)を取引の額に乗じて得た額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率(為替リスク想定比率)は変動いたします。取引所株価指数証拠金取引に必要な証拠金額は、商品ごとに当社が定める 1 枚あたりの必要証拠金の額に建玉数量を乗じる一律方式により計算されますが、1 枚あたりの必要証拠金額は変動いたします。

金融商品取引業 関東財務局長(金商)第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
